
成り行きで悪人になりました

とおぼえ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

成り行きで悪人になりました

【Nコード】

N0636Z

【作者名】

とおぼえ

【あらすじ】

王殺し！？謀反！？知りませんよそんなこと！！

平民上がりで見習い魔術師のフォルティアは、陰謀に巻き込まれ、身に覚えのない罪を着せられる。全ての権利を剥奪され、牢に入れられたフォルティアはしかし一人の少年に助けられた。

「お前、魔法とか打てないわけ？さつさと蹴ちらせよ」「て、助けてくれないの！？」「いや、俺平和主義だし。兵士怖いし。赤の他人のために人生棒に振るとかありえないから」「ならなんで助けたの・・・」「暇だったから」

真面目で苦労人の少女とドSで我が道を行く少年が繰り広げる、
ドタバタコメディーここに開幕！！少女の行く道に平穩はあるのか。
チート主人公、ご都合主義が多く
出てきます。そういったものが苦手な方はご遠慮ください。

ブログ 誰かの小さな独白（前書き）

初投稿になります。未熟者で至らないところもあるかと思いますが、どうぞよろしく願います。

ブローグ 誰かの小さな独白

時々ふと思い出すことがある。

視界に映る世界は狭く、どうしようもなく汚いものだ。
幼い僕は、ただそう思っていた。

あまりに理不尽で、ときに暴力的なそれは、無力な僕を真つ暗な檻に閉じ込め、せせら笑う。

僕にとって、世界は敵だった。

決して分かり合うことのできない、残酷な敵。
闇から覗く光は、いつだって僕を苦しめる。そのくせ、手を伸ばせば遠ざかり、拝むことすら許されない。

でも、悲しくはなかった。わかっていたから。

これが現実なのだと。これが世界なのだと。

．．
だけど。

あいつが来てから、何かが変わったんだ。

「まったく現実つてのはなんともつまらないものだね。
．．．．
君はいつまでこんなところにいるつもりだい？」

誰だ。

「怖いのかい」

怖い？

「大丈夫。世界は君が思ってるよりも、ずっとずっと広いものだよ。一緒に他の世界を見に行かないかい？」

僕なんかといたら、あんたも無事では済まないぞ。

「関係ないよ。さあ、行こう」

僕を無理矢理引っ張っていくその手は、とても温かくて。

僕は生まれて初めて光を見た。

「ボクの名は架哉。
桐堂架哉だ」

ブローグ 誰かの小さな独白（後書き）

この回はシリアスになってしまいましたが、普段は笑い全開にするつもりです。

頑張っていきます！

第1話 軽く人生終了のお知らせ（前書き）

少し展開が早かったかもしれませんが。

第1話 軽く人生終了のお知らせ

生まれてまだ17年のときしか生きていない私は、人生を語るには未熟な存在だ。私の5倍以上もの歳を経てきた人は数え切れない程いる。彼らから言わせれば、私は世の中の何を何もわかっていないひよっこなのだろう。

「国立ヴィーデルアウス高等魔術学校中等科、フォルティア・アリネルさんですね」

しかし、そんな私でも一つだけ言えることがある。

それは。

「あなたを王国への反逆、ひいては王の暗殺を企てた罪により拘束します」

一度終わってしまった人生は、二度と元には戻らないということ

だ。

なんでこうなったんだろう。私の何がいけなかったんだろう。

平民の家に生まれて、生活はいつも苦しかった。私には、まだ幼い弟と妹がいる。少しでも親の負担を減らしたかった。

魔術の才があるとわかってからは、家を飛び出しお金を稼ぐためにひたすら勉強した。

平民であることを何度も馬鹿にされた。お金がなくて路頭に迷ったことや、空腹で行き倒れたことも一度や二度ではない。何度絶望したことが、何度諦めてしまおうかと思ったことがある。

それでもくじけなかった。

だから貴族の名門と名高いヴィーデルアウスに平民の身で入ることが出来たし、魔術師になる道さえ開けた。

全てが順調。 そのはずだったのに。

「なんで こんなことに」

薄暗い小さな部屋。非情なくらいに冷たく、硬い床。そこには何も
ない。ただ絶望的なまでの沈黙があるだけだ。

王国直下罪人幽閉所。通称、グレイフヤード毒する墓。

敗者が集うその場所は、不可侵にして脱出不可。気が狂う程の静
寂が、ゆっくりと、しかし確実に心を蝕み、壊していく。
私もいつかはその狂気に侵されるのだろう。

．．．．．そう。普通ならばそのはずだった。

普通ならね。

「おっし！！道が開けたな！行くぞ．．．．．って、なんだよ。まだ敵いるじゃねーか。はいファイアーボール一丁！速やかに虫けらを駆除し、突破口を開け！」

「や、あのう．．．．．」

「なんだよ、ノリが悪いなあ。脱出したいんだろ？」

「そ、それはそうだけど」

「じゃあ撃つしかないな。ああ撃つしかない。ここで捕まったら、脱出するしない以前に何されるかわかんないもんなあ。だって、王の暗殺企てで、捕まって脱走して王国の人間に散々魔法ぶっ放してもって施設の破壊活動に機密情報の奪取、貴族及び王への暴言の数々そう不敬罪！まずは拷問、いや陵辱か？知らんけど、ロクな目には遭わんだろうなあ。．．．．．あ、敵来たぜ」

「．．．．．っ！！ああ、もう！《ファイアーボール》！！！」

特大の炎の玉が王国の兵士たちを包み込み、爆音とともに盛大に爆ぜた。

死んでないよね？ねえ、死んでないよね？自分でやっというてなんだがかなり心配だ。もしも死人が出てたりしていた場合は．．．．．。

「直撃か。ありや確実に死んだな。よかったな、その輝かしい犯罪歴に多量殺人が加わったぞ」

だ、誰のせいだと思って・・・!!

私は半ば本気で泣きそうになりながら、状況を楽しんでるとしか
思えない少年を睨みつけた。

第1話 軽く人生終了のお知らせ（後書き）

今後、少女は少年にガンガン振り回されていきます。
そのハチャメチャ感をうまく書けたらなあと思います。

第2話 不可能ね。なにそれ美味しいもの？（前書き）

今回もかなり真面目な話。

なかなかギャグパートにいけない。

文才があつたらと痛切に思う今日この頃。

第2話 不可能ね。なにそれ美味しいもの？

その声が聞こえたのは、牢に入れられて3日がたった晩のことだった。

「お前、生きたいか」

初めは空耳かと思った。この毒^{グレイフヤード}する墓では、囚人と看守を除いて声を発する者はいない。囚人の部屋は一人ずつ隔離されており、看守が声を出すことなどよっぽどのことがない限り無いので、実質声など皆無のはずだ。

「・・・・・・・・・・・・・・・・幽霊？」

「俺が幽霊に見えるか？」

「うっん」

薄暗いのはつきりと見ることはできないが、少なくとも宙に浮いていたり、透けて景色が覗けたりなんかはしていない。

もつとも、実際に幽霊に会ったことがあるわけではないので、詳しくことはなんとも言えないが。

「あなたは誰なの？」

「ん、俺か？俺は、そうだな・・・・・・・・・・通りすがりの人助け請負人、なんてどうだ？」

いや、どうだと言われても。

「まあいいや。お前さ、脱獄を考えたりとかしない？」

「不可能です。脱獄なんて」

「不可能、ね。本当にそう思ってるのか」

「・・・・・・・・・・どっいう意味ですか」

クスツと小さく笑う声がした。

「そのまんまの意味さ。脱獄不可能？不可侵の監獄？．．．．．
まさか。そんなの御伽話の空想だ」

「でも、実際にこの毒する墓グレイファードを脱獄した人がいるなんて聞いたこと
がありませんよ」

毒する墓グレイファードは王国の位置する東域で最大の監獄だ。他ならぬセキュ
リティの面においては他者の追隨を許さない。

しかし、聞こえたのは辛辣な言葉だった。

「この程度の設備で東域最大とはよく言っな。笑えるんですけど
! !」

「な」

「だってそうだろ。不可侵? え、何お前ら人の規模で考えちゃってんの? ゴーレムで殴られても平静を保っていられますか? ドラゴンの息吹とか防げちゃう感じですか? いや無理だろ? ぶっちゃけ無理だろ? 空から流星とか降ってきて、それが全部直撃ルートだなんていったら冷静に対処とかできないだろ」

「そんなの理想論だよ」

都合よくそんなことが起きるはずもない。ゴーレムやドラゴンも操ることができる人なんて、いなくはないだろうが、相当数は限られている。

だからそんなこと。

「俺はゴーレムが城を落とすところ見たことがある」

「は？」

「義妹はドラゴンを召喚できる。義兄は魔法で流星群を作り出せる」

「え、えと、あの……………嘘でしょ？」

「本当だ。全部本当だ。世界は広いんだよ、人の想像を遥かに超えてな。だから面白いんだ。だから――」

暗闇に一筋の光が見えた。

「俺の前で不可能という言葉を口にするのは許さない。絶対に」

「俺の言葉をしかと胸に刻めよ、小娘。俺の名は桐堂蓮夜。
不可能を否定する男だ」

部屋を外界から閉ざしていた檻が、音もなく崩れ落ちた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0636z/>

成り行きで悪人になりました

2011年12月3日14時52分発行